

令和元年度 へき地校体験実習 アンケート (令和2年1月16日現在)

実施者：北海道教育大学 へき地・小規模校教育研究センター

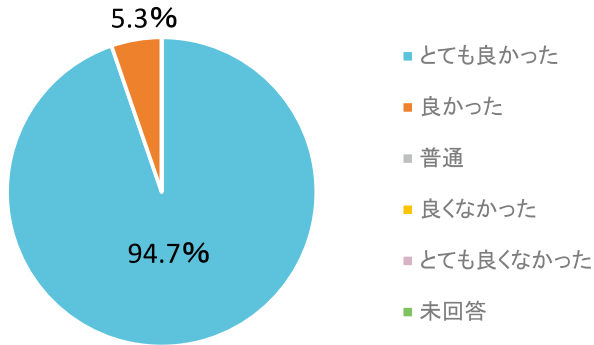
実施形式：直前指導もしくは実習手帳提出時に配付

実施期間：令和元年8月～10月

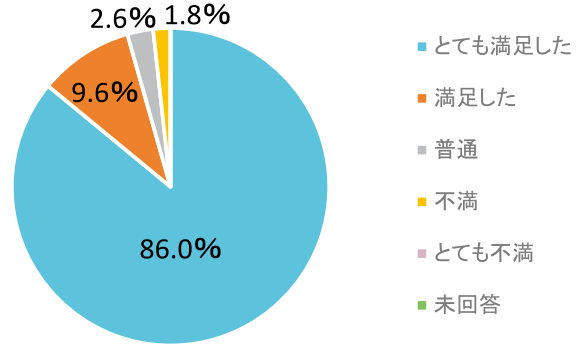
対象者：114名（札幌・旭川・釧路校 へき地校体験実習〔夏期：1週間〕履修生）

回答者：114名（回答率100%）

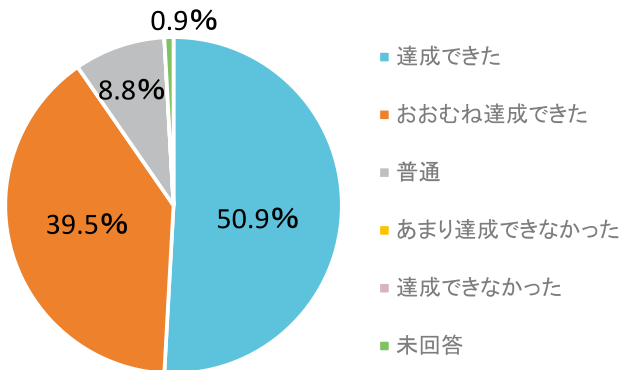
1. 実習に参加してよかったか



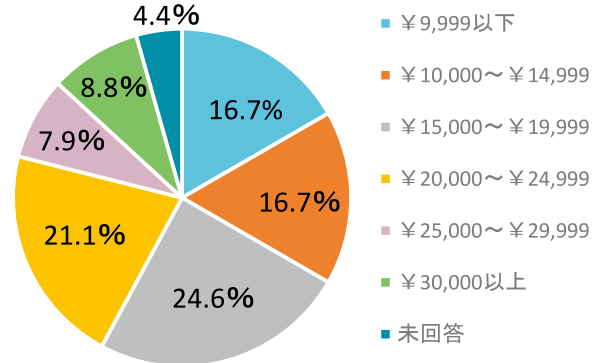
2. 実習の満足度は



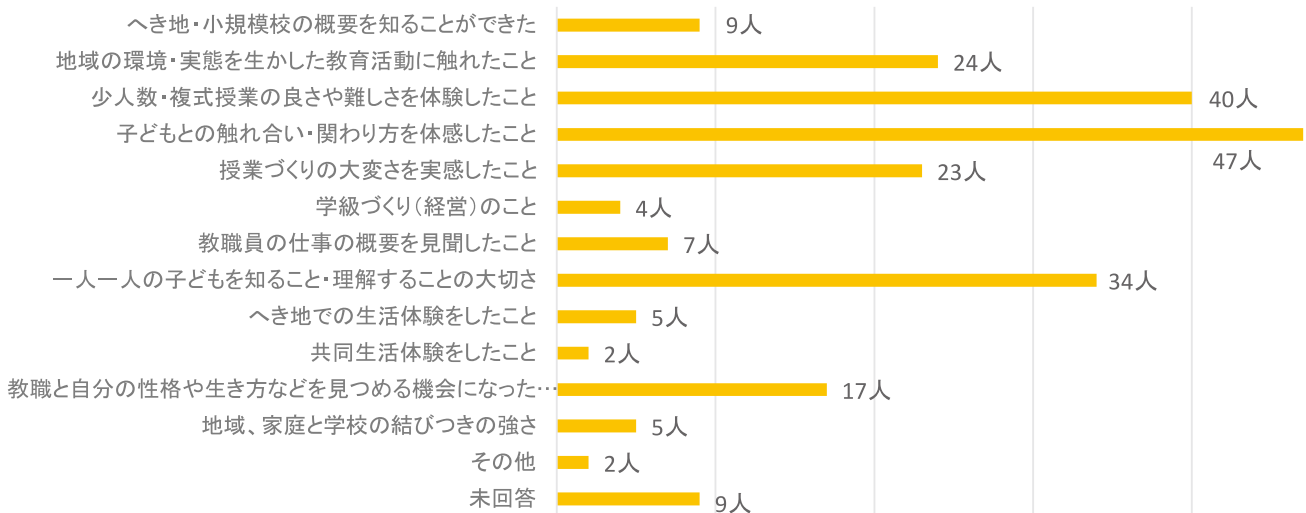
3. この実習で学びたかったことに対する達成度



4. 実習経費



5. 今回の実習で最も大きな成果・学んだこと・感じたことなど(1名2項目回答)



令和元年度 へき地校体験実習Ⅰ・Ⅱを終えて ～ 受講生アンケート

実習を終えた感想

- ・大学の講義では学ぶことができない価値ある学びを得ることができた。担当は1年生（単式）であり、できないことはできるまで繰り返し伝えていくことが大切であることを学んだ。3～6年生（複式）では間接指導の時に自分達で考え、話し合うことができ、学び方を身につけさせることが小規模校では大切になり、これは小規模校に関わらず大切にすべきことであると考えさせられた。授業と休み時間の過ごし方に切り替えがしっかりとつけられる子ども達の様子に刺激を受けながら、真剣に、そして楽しく実習期間を過ごした。職員の方々、児童の皆さん、そして地域の方々との出会いに感謝した。
- ・1週間現場に入ると、児童の様子や特徴、日によって調子が違うこと、人間関係、悩み事が見えてくる。また学級の雰囲気や先生と児童達の関係も分かってくる。その中で、自分には何ができるか、自分ならどうするかを考えることが一番勉強になった。自分の力不足も痛感した。
- ・本当に私たちは手厚く温かく迎え入れていただいて幸せだと感じた。へき地校ならではの関係の親密さ（児童と児童、児童と教師、教師と教師、学校と地域）の中に私たちもわずかながら入れたのではないかと感じるほど楽しい7日間だった。やはり、百聞は一見に如かず、実際のへき地校を肌身で感じることで、今までの考えやイメージが更新されたと思う。短い期間だったが、多くの学びを得た実習だった。
- ・私は小・中・高どの先生になるか、まだ決めていないが、いざ決めるとなったときには必ず思い出し参考とするであろう貴重な経験ができた。子どもたちを実際に相手にして複式と単式の授業をするのはどちらも初めての経験だった。その中で、やはり子どもたちを目の前にして授業を進行する難しさを感じた。しかし、それ以上に面白さにも気づくことができ、教員のやりがいや楽しさを実感した。
- ・その土地で泊まりながら、実習に行くのはとても良い経験で、多くの面で発見があった。座学ではわからない生きた体験ができ、自分の教員になりたいという思いが強くなった。
- ・複式授業は、実際に自分がやってみると、指導の難しさやへき地校で働いている先生への敬意がより一層増した。指導案作りで、書くのに時間がかかっても、教材としてふさわしいか分からず、困っていた時でも、職員の方々は優しく見守り、最後まで丁寧に指導してくれた。それから、子どもたちも笑顔で迎え入れてくれて、本当に環境も人間もすばらしかった。「教育の原点はへき地教育」という言葉に納得した。
- ・初めての教育実習を終え、教員として働きたいという気持ちが一層強くなったと同時に、今の自分に何が足りないか、課題を多く見つけられた。今回は小規模校における単式学級の授業見学、教壇実習を行ったが、小規模校に限らず、どの学校でも考える必要のあることがわかった。今後大学で講義を受けたり、主免・副免実習を行っていくうえで、今回の実習から得たものを活かして、様々な事象について考え、体験していきたい。
- ・へき地教育の在り方や児童との関わりを学び、先生方から手厚いご指導を頂けて、大変有意義な5日間であった。学びも大きかったが、自分がこれから関わるであろう児童・生徒の姿を見ることができ、教職への志を高めることができた。
- ・実習を終えてまず、本当に行ってよかったと思うことができた。子どもたちと関わる経験を実際にすることができたこと、現場の先生方の意見を直接聞くことで、新たに知識を得ることができ、既存の知識と確認をすることもできた。
- ・一週間という短い期間であったが、教員という仕事を見つめ直し、子どもたち、そして自分と向き合うことができた。不安ばかりで始まった実習であったが、児童や先生方、そして地域の方々の温かさに何度も救われ、子どもたちに教える喜びも知ることができ、自分にとってとても濃い1週間となった。

- ・実習には、心の躍動する経験がたまっていることを切に感じた。座学で頭を動かしたり、自学で調べものをするこゝでは得られない学びや喜びがある。児童と向かい合う中で、何ができるのか、という面で理想の教師像を少しずつ明らかにできたと感じている。
- ・大学の講義のみでは学びきれないたくさんのことを学ぶことができた。特に子どもたちやへき地教育の素晴らしさに気づくことができ良かった。先生方の姿を見て、教職への意欲がわいた。
- ・今振り返ると、夏休みの中で一番充実した濃い一週間だったと感じる。11月に学芸会に行き、12月にもちつき大会に行くが、次に行くもちつき大会で最後だと思うとすごく寂しく思う。もう一回行きたいとすごく思う。来年の実習への少しの自信につながった。
- ・実習を終えて、今まで思っていたへき地のイメージとは違って、とてもへき地に対して、良いイメージ（働きたいなど）を持つことができた。また、自分が今、小、中学校で悩んでいるので、よく考えさせられた5日間だった。行事に多く関わることができ、とてもいい経験になった。
- ・授業実習をたくさんやらせていただいて経験値が上がったし、授業づくりや発問の工夫、子どもたちとの関わり方について多くのことを学んだ。1週間で自分自身が成長できたと感じる。また、私は緊張しやすい性格のため、皆の前で話したり、年上の教職員の皆様や地域の方々と話すことは不安があったのだが、少しだけ克服できたように思う。前で話したり、色々な人と話すことは慣れたと思うので、どんどん挑戦して、緊張や不安を減らしたい。
- ・実際の現場でその空気を感じられたことが最大の成果だったと思う。しかしながら、「へき地」の生活、集団生活、地域の方との関わりなど、学校外での学びも大変多く、教員志望の大学生としてだけでなく、人間として、社会人になる者として、成長することのできる良い機会だった。
- ・複式学級を受け持つなかでの教師の工夫であったり、配慮があり、児童の考えを大切にしながら、教師がいない間はリーダーが進めるなど、授業を組み立てる難しさを感じた。また、へき地は縦のつながりがとても強いことを実感した。いい関係を築けていて、縦割り班の活動が多いのもそのためなのかなと思った。
- ・教師のやりがい、子どもたちの笑顔や喜んでいる姿を見て、学校の温かさを感じることができ、教師になろうという気持ちが高まった。地域、児童、先生方との関わりを深められ、授業観察だけではなく、教壇実習という貴重な体験もさせていただき充実した実習となった。有り難うございました。
- ・今回の実習を通して、へき地教育の実態を把握することができた。地域とのつながりや環境を生かした教育など、今までは味わうことのできないことを体験できた。この経験をもとに、今後の学校生活や進路選択、実習等に生かしていきたい。
- ・普段できない合同合宿やへき地での授業観察などができたので、とても勉強になった。教育について学ぶなら、教育フィールド研究で訪問する中規模の学校だけでなく、へき地のことも学べるので良いと感じた。
- ・5日間の実習はとても有意義なものになった。児童は明るくてすごくアクティブで、いつも笑って走って、感情豊かな子たちだと思った。職員の先生方はすごく優しく、5日間という短い期間で工夫などもたくさん教えてくれた。PTA会長も偉大な方で、まさかへき地実習で漁船に乗ることになるとはまったく思っていなかった。貴重な体験をさせていただいたと感じた。
- ・授業実践の機会を与えていただき、難しい複式の授業に挑戦できた。不安だったがやってみることが大事だと思った。(やってみないと気づけないこともたくさんある)。地域の方とも触れ合うことが多かったため、地域を活かした教育を学ぶことができた。
- ・5日間実習に行行って良かったと感じた。自分のやりたいことが見つかって、大学での学びが机上の空論にならずに済んだと思った。もっともっと学びたいと感じた。先生という仕事に限らず、教育という分野に自分も携わりたいと思った。